

平成29年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年10月7日

上場会社名 株式会社マックハウス 上場取引所 東
 コード番号 7603 URL http://www.mac-house.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白土 孝
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 杉浦 功四郎 (TEL) 03-3316-1911
 四半期報告書提出予定日 平成28年10月13日 配当支払開始予定日 平成28年11月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第2四半期の業績(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年2月期第2四半期	16,669	△3.5	△26	—	20	△94.3	△145	—
28年2月期第2四半期	17,275	△0.5	297	—	359	—	65	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年2月期第2四半期	△9.49	—
28年2月期第2四半期	4.29	4.28

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年2月期第2四半期	23,883	14,369	60.0
28年2月期	25,590	14,830	57.9

(参考) 自己資本 29年2月期第2四半期 14,336百万円 28年2月期 14,805百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年2月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年2月期	—	20.00	—	—	—
29年2月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年2月期の業績予想(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,800	△3.3	530	△26.3	560	△32.9	10	△93.6	0.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年2月期2Q	15,597,638株	28年2月期	15,597,638株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

29年2月期2Q	260,685株	28年2月期	260,645株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年2月期2Q	15,336,974株	28年2月期2Q	15,337,344株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については四半期決算短信（添付資料）3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 参考資料	10
商品別売上高の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(平成28年3月1日～平成28年8月31日)における我が国の経済は、雇用・所得環境が改善傾向にあるものの、引き続き個人消費に弱さがみられ、中国をはじめとするアジア新興国等の景気の下振れなど、先行き不透明な状況で推移しました。

競争が激化する、中・低価格帯のカジュアルウェア業界は、依然として高い消費者の生活防衛意識により低価格化が進み、経営環境は厳しい状況で推移しております。

かかる状況下におきまして、当社は成長を勝ち取るため、新たなビジネスモデルの確立を目指し様々なチャレンジを行っております。前期に引き続き既存店売上高の底上げが第一の課題であると考え、その実現のために、多くのお客様にご来店いただくとともに繰り返しご利用いただくための施策を講じてまいりました。

具体的には、継続して価値のある低価格商品の販売を強化するとともに、実需商品であるインナーレグウェアおよびレイン関連商品の充実を図っております。更に、「サプライズプロジェクト」企画として、「本格派Gジャン」を驚きの低価格と品質で実現したほか、「ストレッチ・チノパンツ」などのセレクトアイテムを数量限定・期間限定で発売しました。新たな売上創出策としてのビジカジおよびオフィカジにつきましても、ジーンズを起点としたジャケットとのコーディネート販売により、多くのお客様に支持され、販売点数を伸ばしております。基軸であるボトムスにつきましては、穿きやすいストレッチ素材に清潔感を保つナノプラチナ加工を施したこだわりのジーンズ「NAVY JEANS」をローンチしました。

販促面におきましては、モバイル配信およびチラシ掲載商品の低価格化により幅広いお客数に訴求しつつ、新聞広告掲載並びにLINE公式アカウントでの情報配信により、新たなお客様の獲得を図りました。

出退店につきましては、3店舗を新規出店した一方、7店舗を閉鎖し、当第2四半期累計期間末の店舗数は448店舗(前年同期比14店舗減)となりました。業態につきましては、「マックハウス スーパーストア」から派生した新業態「マックハウス スーパーストア フューチャー」を立ち上げました。「マックハウス スーパーストア フューチャー」の店舗数は、2店舗の新規出店に加え、増床を伴う改装および移転により、既存店10店舗を業態変更し、12店舗となりました。なお、「マックハウス スーパーストア」の店舗数は、3店舗となっております。

上記施策の結果、当第2四半期累計期間における既存店売上高は前年同期比0.1%増、既存店客数は前年同期比5.8%増となりました。全店売上高は、7月までの5ヶ月間は計画線で推移していたものの8月の天候不順等の影響により大幅な計画未達となり、前年同期比3.5%減となりました。

利益面につきましては、競争優位を獲得するための値引き販売増加等により、売上総利益率は前年同期比で0.2ポイント減となりました。

経費面におきましては、不採算店舗閉鎖による削減効果があった一方、広告宣伝費を中心とした販売費の増加等により、計画を超過した結果、前年同期と比べ、ほぼ同額となりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間における売上高は16,669百万円(前年同四半期比3.5%減)となりました。また、営業損失は26百万円(前年同四半期は営業利益297百万円)、経常利益は20百万円(前年同四半期比94.3%減)、四半期純損失は145百万円(前年同四半期は四半期純利益65百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1,706百万円減少し、23,883百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ1,667百万円減少し、17,216百万円となりました。これは主に現金及び預金が1,111百万円、商品が668百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ38百万円減少し、6,666百万円となりました。これは主に敷金及び保証金が115百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ1,245百万円減少し、9,513百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ1,239百万円減少し、7,148百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が535百万円、ファクタリング債務が410百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ5百万円減少し、2,365百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ461百万円減少し、14,369百万円となりました。

これは主に四半期純損失を145百万円、剰余金の配当306百万円を行ったこと等によるものであり、総資産に占める自己資本比率は60.0%となり前事業年度末に比べ2.1ポイント増となりました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなり、資金は前事業年度末に比べ811百万円減少し、4,975百万円となりました。

また、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果支出した資金は、453百万円(前年同四半期比2,048百万円支出減少)となりました。

これは主に、税引前四半期純損失を105百万円計上するとともに、たな卸資産の減少による収入668百万円、仕入債務の減少による支出948百万円等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、41百万円(前年同四半期は949百万円の収入)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得により285百万円、敷金及び保証金の差入により90百万円を支出した一方で、定期預金の払戻による収入300百万円等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、316百万円(前年同四半期比13百万円支出減少)となりました。

これは主に配当金の支払額306百万円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、平成28年4月8日付、「平成28年2月期決算短信」で公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成28年10月3日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び事業用定期借地権付建物については定額法)を採用していましたが、第1四半期会計期間より定額法に変更しております。

当社において、これまでの設備投資の実績及び今後の投資計画に基づき保有する固定資産について再度検証した結果、主として出店及び改装等に係る店舗設備であるため、長期的に安定した稼働が見込まれる資産であり、店舗運営コストと売上の対応の観点から設備投資のコストを每期平均的に負担させる定額法を採用することが経済的実態を合理的に反映させるものと判断したものであります。

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の減価償却費及び営業損失が16百万円それぞれ減少し、経常利益が16百万円増加しております。また、税引前四半期純損失が15百万円減少しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,087	5,975
売掛金	462	535
商品	10,790	10,122
前払費用	305	314
繰延税金資産	180	207
その他	56	59
流動資産合計	18,884	17,216
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	121	114
建物附属設備（純額）	1,079	1,137
構築物（純額）	27	24
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	121	155
リース資産（純額）	12	10
土地	194	194
その他	—	6
有形固定資産合計	1,557	1,643
無形固定資産	201	187
投資その他の資産		
長期前払費用	176	161
敷金及び保証金	4,166	4,051
繰延税金資産	597	546
その他	24	87
貸倒引当金	△19	△11
投資その他の資産合計	4,946	4,835
固定資産合計	6,705	6,666
資産合計	25,590	23,883

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成28年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,657	5,121
ファクタリング債務	835	424
未払金	296	271
未払法人税等	345	128
未払費用	714	770
賞与引当金	107	75
ポイント引当金	50	57
店舗閉鎖損失引当金	53	36
資産除去債務	17	15
その他	308	246
流動負債合計	8,387	7,148
固定負債		
退職給付引当金	1,392	1,393
転貸損失引当金	147	139
長期預り保証金	172	172
資産除去債務	611	619
その他	46	40
固定負債合計	2,371	2,365
負債合計	10,759	9,513
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617	1,617
資本剰余金	5,299	5,299
利益剰余金	8,053	7,600
自己株式	△153	△153
株主資本合計	14,817	14,364
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△11	△28
評価・換算差額等合計	△11	△28
新株予約権	25	33
純資産合計	14,830	14,369
負債純資産合計	25,590	23,883

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
売上高	17,275	16,669
売上原価	9,132	8,847
売上総利益	8,142	7,821
販売費及び一般管理費	7,845	7,848
営業利益又は営業損失(△)	297	△26
営業外収益		
受取利息	6	4
受取家賃	151	147
その他	50	31
営業外収益合計	208	184
営業外費用		
支払利息	0	0
不動産賃貸費用	137	134
その他	7	2
営業外費用合計	145	137
経常利益	359	20
特別損失		
固定資産除却損	13	25
店舗閉鎖損失	—	1
減損損失	49	99
店舗閉鎖損失引当金繰入額	20	—
特別損失合計	84	126
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	275	△105
法人税、住民税及び事業税	87	87
法人税等還付税額	—	△80
法人税等調整額	121	32
法人税等合計	209	39
四半期純利益又は四半期純損失(△)	65	△145

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	275	△105
減価償却費	160	138
減損損失	49	99
退職給付引当金の増減額(△は減少)	5	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	3	△31
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8	△7
ポイント引当金の増減額(△は減少)	—	7
受取利息及び受取配当金	△6	△4
転貸損失引当金の増減額(△は減少)	△8	△8
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△15	△17
リース資産減損勘定の増減額(△は減少)	△56	△20
支払利息	0	0
賃借料との相殺による保証金返還額	86	72
売上債権の増減額(△は増加)	△101	△72
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,026	668
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,984	△948
固定資産除却損	13	25
店舗閉鎖損失	—	1
未払消費税等の増減額(△は減少)	49	△58
未収消費税等の増減額(△は増加)	2	—
その他	33	52
小計	△2,526	△209
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△69	△324
法人税等の還付額	93	80
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,502	△453
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△130	△285
無形固定資産の取得による支出	△13	△1
定期預金の払戻による収入	1,002	300
敷金及び保証金の差入による支出	△28	△90
敷金及び保証金の回収による収入	156	52
その他	△36	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー	949	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△306	△306
リース債務の返済による支出	△1	△1
割賦債務の返済による支出	△22	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△330	△316
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,883	△811
現金及び現金同等物の期首残高	6,313	5,787
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,430	4,975

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第2四半期累計期間(自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)

当社は衣料品等小売業並びにその他サービス業務を営んでおりますが、その他サービス業務の重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

4. 「参考資料」

(1) 商品別売上高の状況

商品別	期別	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間	前年同四半期比	増減
		自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日	自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日		
メンズトップス		4,752百万円	4,234百万円	89.1%	△518百万円
メンズボトムス		3,605百万円	3,592百万円	99.6%	△13百万円
レディーストップス		1,979百万円	1,914百万円	96.8%	△64百万円
レディースボトムス		2,149百万円	2,053百万円	95.5%	△96百万円
キッズ		1,725百万円	1,631百万円	94.6%	△93百万円
その他		3,062百万円	3,243百万円	105.9%	181百万円
合計		17,275百万円	16,669百万円	96.5%	△605百万円

(注) 「その他」はビジカジ、インナー・レッグ、雑貨等であります。